

日 時 平成28年2月26日(金) 第5校時
 13:35～14:20
 学校名 世田谷区立経堂小学校
 授業者 2組 小甲 圭悟
 3組 桑島 孝博

1 小单元名 「日本とつながりの深い国々」(全8時間)

2 小单元の目標と観点別評価規準

(1) 小单元の目標

我が国と経済や文化などの面で関係の深い国々の人々の生活の様子を調べ、我が国と諸外国には文化や習慣の違いがあることを理解するとともに、外国の人々と生きていくには、異なる文化や習慣を理解し、尊重し合うことが大切であると考えられるようにする。

(2) 観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程のどこで
社会的事象への 関心・意欲・態度	①我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ②それぞれの国の異なる文化や習慣を理解し、尊重し合うことの大切さを考えようとしている。	つかむ ふかめる
社会的な 思考・判断・表現	①我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の生活について、学習問題や予想、学習計画を考えている。 ②我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の文化や習慣を比較し、互いの異なる文化や習慣を理解し合うこととの大切さについて考え、適切に表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の 技能	①我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の生活の様子について、資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。 ②我が国と経済や文化の面で関係の深い国々について調べたことを作品にまとめている。	調べる 調べる
社会的事象について の知識・理解	①我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の生活の様子について理解している。	つかむ 調べる

3 小単元について

本小単元では、学習指導要領第6学年の内容(3)のアを受けて設定されている。貿易や経済協力の面、歴史や文化、スポーツの交流などの面で我が国とつながりの深い国の人々の生活の様子について調べ、外国の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であると考えられるようにすることをねらいにしている。そのために、日本とつながりの深い国として、我が国の歴史や文化に大きな影響を与えている中国、経済や文化の面でも深いつながりのあるアメリカ、我が国の主な石油の輸入先であるサウジアラビア、歴史的に日本からの永住者が多く、今年リオデジャネイロオリンピックが開催されスポーツ交流も盛んなブラジルを取り上げて調べる。これら四カ国の生活について、学校生活、衣服や料理、食事の習慣、住居などの特色、文化、産業などの面について調べ、それぞれの国の生活は日本と違いや共通点があることが分かるようする。これらの国の生活について調べることを通して、それぞれの国の人は、それぞれの国の文化や生活習慣を大切にしていることにも気付けるようにする。

4 児童の実態

社会科の学習では、学習問題をつくり、追究していく問題解決的な学習を繰り返して行っている。問題解決的な学習過程を、児童は概ね意識出来ている。社会科学習に関心をもつ児童も見られ、自ら資料を探したり、社会科の学習に関係する本を読んだりしている。本学級には、外国人(イタリア、中国、アメリカ)とのハーフの児童が3名おり、国際化社会が進んでいることを実生活の中で理解している児童も多いと考えられる。しかし、外国の人々がどのような生活習慣や文化をもっているか知識をもっている児童は少ない。本小単元の学習を通して、それぞれの国には日本と違った文化や生活習慣があることに気付かせたい。

社会科の学習に限らず、考えを伝え合いながら学習することの大切さについて伝えてきているが、自分から発言する児童が一部に偏ってしまう傾向がある。意図的に指名をして発表する機会を設けたり、少人数のグループ活動などを取り入れたりして、自分の意見を伝える力や友達の考えを参考にしながらよりよい考えをもつ力を育てる指導を行なっている。また、考えを発表する際、必ず根拠を示すように繰り返し指導しているが、全ての児童に定着はしていない。根拠を示しながら考えを伝え合い、論理的に考えることの出来る児童を増やしていきたい。資料を活用する力には個人差があり、資料からの確に情報を読み取れる児童とそうではない児童の差が見られる。そこで、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめる活動も他教科でも取り入れている。

5 学年の研究主題との関連

(1) 社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発

「ふかめる」段階では、「これから日本に来る外国人が増えていく中で、世界の人々とどのように関わっていくべきだろうか」という問いについて考える。この問いに対して考えるために、「ふかめる」段階の第一時でブラジル人が多数住んでいる群馬県大泉町の取組について調べる。群馬県大泉町では、日本人がブラジル人の生活習慣が自分たちと違うことを理解した上で、ポルトガル語の情報誌を作ったり、文化の通訳制度を行ったりしている。一方、ブラジル人は文化の通訳講座に参加し、日本人の生活習慣を理解し、日本人とのコミュニティの一員として生活している。大泉町の国際共生における課題と課題解決の取組を事例として取り上げることで、世界の人々と共に生活する際は、良い面だけでなく難しさもあることを理解できるようにする。

「ふかめる」段階の第二時では、自分たちの暮らす東京でも外国人が増えていることを知り、「違う文化をもった世界の人々と共に生きていくためにはどのようなことが大切だろうか」ということについて考える。大泉町の取組を調べた上で、国際共生に必要なことを考えることで「簡単ではないが大泉町のように、やはり自分たちも外国の人とお互いの文化を尊重し合って生きていくことが大切だ。」と「まとめる」段階で獲得した中心概念をふかめられるようにする。

(2) 社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

① 小単元を貫く学習問題の設定

つかむ段階の初めに、日本の学校の様子とアメリカ、サウジアラビア、中国、ブラジルの学校の様子を比較させる。四カ国の学校生活には、日本と様々な違いがあることに気づかせ、学校生活以外にも生活の仕方に違いがあるのではないかと、それぞれの国の生活に関心をもたせる。児童に学校生活以外における違いを予想させ、様々な予想を出し合うことでそれぞれの国がどのような生活をしているか調べるための学習問題を「日本とつながっている国々の人々はどのような生活をしているのだろう」と設定する。

② 社会認識を深める学び合いの活動

「ふかめる」段階の第二時では「まとめる」段階で児童が獲得した「世界の人々は様々な違った文化や習慣をもった人がいるのでお互いの文化や生活習慣を認め合うことが大切だ。」という考えに対して再考させる。違う文化をもった世界の人々と共生に必要なだと考えることについて友だちと話し合う活動を取り入れ、「簡単ではないかもしれないが、やはりお互いの文化を尊重し合うことが大切だ」と「まとめる」段階で獲得した中心概念を深めたいと考えている。

(3) 社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫

① まとめる段階、ふかめる段階での評価規準と手だて

本小単元で目指す児童像の育成のために、「まとめる」「ふかめる」段階において、次のように評価規準とつまずきに対する手立てをそれぞれ考えた。

	まとめる段階	ふかめる段階
評価規準	我が国と経済や文化の面で関係の深い国々の人々の文化や習慣を比較し、互いの異なる文化や習慣を理解し合うこととの大切さについて考え、適切に表現している。	それぞれの国の異なる文化や習慣を理解し、尊重し合うことの大切さを考えようとしている
評価規準を達成した児童の姿(例)	それぞれの国の人々は、違った生活習慣があり、それぞれの文化を大切にしているから、お互いに認め合っていく必要がある。	違った文化をもった人々と生きていくには難しさもあるが、やはりお互いの文化を尊重し合い共に生きていくことが大切だ
つまずきに対する手だて	調べる段階までにまとめたワークシートを4枚並べ、視覚的に日本との共通点、相違点があることに気付かせる	意見文が書くことが難しい児童には、文型を指示して自分の考えを文章に書けるようにする。

② ホワイトボードを活用した話し合い

グループでの話し合いは3人～4人の少人数のグループで行い、内容をホワイトボードに書かせる。話し合いの内容を視覚化することで、児童は話し合っている内容が整理され、話し合いの質が高まる。また教師は、話し合いの流れや話し合った内容が把握しやすくなり、授業時間中での指導に生かしたり、その後の評価に活かしたりすることができる。ホワイトボードの書かせ方はキーワードにまとめる方法やイメージマップのような図にまとめる方法を、話し合いの内容に合わせて工夫する。

学習指導要領

学習指導要領「内容」との関連

(3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割をはたしていることを考えるようにする。

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子

中心概念

外国の人々と共に生きていくためには、それぞれの国に異なる文化や習慣があることを理解し、お互いの異なった文化や習慣を尊重し合うことが大切である。⑥

具体的知識

・日本と中国やアメリカ、サウジアラビア、ブラジルの学校生活の様子は違う。①

・日本と中国やアメリカ、サウジアラビア、ブラジルといった国は、言語や地形などで違いがある。②

・それぞれの国には、学校生活の様子や遊び、衣食住、文化、産業といった面で独自のものがあり、日本との共通点や相違点がある。③④

⑤
・日本と関係の深い国を比較すると、様々な違いがあり、どの国も独自の文化や習慣を大切にしている。

・外国人と同じ地域で暮らす際、産業が発展するといった良い面もあるが、ごみの出し方で地域住民と外国人の間に問題が起きている。⑦

・異なった文化や習慣を認め合うことには難しさもあるが、共に生きていくためにはお互いの文化を尊重していくことが大切だ。⑧

用語等

・世界の学校

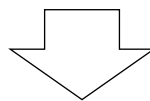
・言語
・地形

・宗教
・風習

・独自

・大泉町
・文化の通訳制度

・共生



育てたい子供の姿

世界の国々の人々と共に生きていくために、それぞれの国の違った文化や習慣について理解し、お互いに尊重しあうことの大切さについて考えようとする子供

7 小単元の指導計画 (8 時間扱い)

学習過程	◇ねらい	○学習活動 ・期待する児童の反応	□教材の工夫 ○指導の工夫 ◆評価【観点】
つかむ①	◇日本と諸外国の学校生活の様子を比較し、生活の様子の違いについて関心をもつ。	○四カ国について知っていることを発表し合う。 ・ブラジルはサッカーが有名だ。 ○四カ国の学校生活の写真を比較し違いを話し合う。 ・サウジアラビアは男子だけで勉強している。 ・教室の掲示物の言葉が違う。 ・着ているものが国によって違う。	□四カ国 (中国、アメリカ、サウジアラビア、ブラジル) の学校生活の写真 □地図帳 □日本から外国への国別永住者数 ○日本からの永住者数がブラジルに多いことを捉えさせる。 □4つの国の学校生活の写真・映像 ◆【関・意・態①】(発言・ノート)
つかむ②	◇日本と関係の深い国々の生活について調べる学習問題をつくり、学習問題について予想し、学習計画を考える。	○四カ国の基本情報(人口、言語、位置、国旗)を調べる。 ○学校の様子その他に日本とどのような違いがあるか予想を出し合い、学習問題をつくる。 ・学校生活以外にも食べ物や服装に違いがあると思う。言葉や習慣なども違うと思う。	□四カ国(アメリカ、中国、サウジアラビア、ブラジル)の基本情報 ○児童の予想を調べる視点に分けて板書し、調べる視点につなげる。 ◆【思・判・表①】(ノート)
日本とつながりの深い国々の人々は、どのような生活をしているのだろうか。			
調べる①	◇自分の選択した日本と関係の深い国の生活の様子について地図や図書資料を活用して必要な情報を集め、調べる。	○日本と関係の深い国々の中から自分が調べる国を選択する。 ○自分の選択した国について視点(学校生活、衣食住、文化、産業)をもって調べる。 ・サウジアラビアの男性はターバンを巻いる。サウジアラビアの人は豚肉を食べない。 ・アメリカの産業として大規模農業、コンピューター技術の開発などが行われている。 ○調べて分からないことや、調べ足りない点を整理する。	○調べる視点を学校生活や遊び、衣食住、文化、産業と共通なものにする。 □教科書・資料集 □図書資料「君にもできる国際交流」 □児童が収集した資料 ◆【観・技①】(ノート) ○調べ足りない点は、本やインターネットなど自分で資料を探すようよう声をかける。
調べる②	◇自分の選択した日本と関係に深い国の生活の様子について調べたことを、ワークシートにまとめる。	○自分の選択した国について調べたことを視点ごとに整理しながら、ワークシートにまとめる。 ○自分の選択した国と日本との共通点や違いをまとめる。 ・中国は日本と同じで、漢字を使うことやはしで食事するなど共通点が多い。 ・アメリカは日本と違って、9月から新学期が始まる。	○ワークシートは視点ごとの枠のあるものを用意する。 □教科書・資料集 □図書資料「君にもできる国際交流」 □児童が収集した資料 ◆【観・技②】(ノート)

調べる③	◇調べた内容を紹介し合い、それぞれの国には日本と違った文化や習慣があることを理解する。	○それぞれ調べたことをグループで発表し合う。 ・ブラジルの産業には、日本人から移り住んだ人も関係している。 ○それぞれの国の相違点や共通点について考え、表にまとめる。 ・どの国もそれぞれ独自の文化や習慣がある。	□児童がまとめたワークシート ○それぞれ違う国を調べた4人ずつのグループで話し合う。 ○視点別に表にまとめることのできるワークシートを用い、それぞれの国の違いが視覚的に分かるようにする。 ◆【知・理①】(ノート)
まとめる①	◇学習問題に対する自分の考えをまとめ、世界の国々の人々と共に暮らしていくために大切なことを考える。	○それぞれの国の相違点や共通点を振り返る。 ○学習問題に対する考えをまとめる。 ・日本と関係の深い国々は、国によってそれぞれ違う文化があり、それぞれの文化を大切にしながら生活している。 ○日本がそれぞれの国とこれからも深くつながっていくために大切なことを考え、意見文にまとめる。 ・お互い違う文化を大切にしているから、お互いに認め合っていく必要があると思う。	□児童がまとめたワークシート □日本に住む外国人の人数の推移 □外国に住む日本人の人数の推移 ○これからの社会も外国人とのつながりが必要であることを想起させる。 ◆【思・判・表②】(ノート)
ふかめる①	◇外国の人々と共に生活することの課題について理解する。	○外国人が多く住む、群馬県大泉町の現状と外国人増加の理由について調べる。 ・大泉町では人口の16%が外国人であり、特にブラジル人の割合が多い。 ・たくさんの工場があり労働者としてたくさんの外国人が働きにきている。 ○大泉町にブラジル人が増えたことによって生まれた良い影響について調べる。 ・産業が発展したり、大泉町への観光で訪れる人が生まれたりして町が賑わっている。 ○大泉町におこった課題をと課題解決に向けた取り組みを調べる。 ・ごみの出し方について住民とブラジル人で問題が起きた。 ・ポルトガル語のごみ出しの表示や広報誌をつくった。 ・文化の通訳制度を行なった。	□日本から外国への国別永住者数 □大泉町の写真 □大泉町、世田谷区の人口における外国人比率 □大泉町についての文章資料 ○大泉町にブラジル人が増えたことによって良い影響があることをおさえた上で、課題もあることを示す。 □大泉町における日本人が困っている事例(ゴミ問題) ◆【関・意・態②】(ノート)
ふかめる②	◇世界の国々の人々と生きていくために大切なことを考える。	○東京都に住む外国人数の推移について調べる。 ・東京都でも外国人の人数は増えている。 ○外国人の人と生きていくために大切だと考えることを話し合う。 ○外国人と共に生きていくために大切なことについて考え、意見文を書く。 ・違う国の人と共に暮らすことは簡単なことではないが、お互いの立場を考えていくこと必要になる。	□大泉町の課題解決に向けた取り組み(行政・地域) ○考えをグループで話し合いホワイトボードにまとめさせる。 ◆【関・意・態②】(ノート)

8 本時案 (8時間扱い7時間目)

(1) ねらい

- ・外国人との共生における課題解決の取組について調べ、お互いの異なる文化や習慣を理解し合うことの大切さについて考える。

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>※資料 ◆指導上の留意点</p> <p>◇評価規準</p>
<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する考えをまとめた。 <p>○群馬県大泉町の概要について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大泉町にはたくさんの外国人が住んでいる。 ・大泉町に外国人が増えたのは、大きな工場があるからだ。 ・ブラジル人が増え、観光客も増えた。 ・大泉町ではごみの分別問題がおきた。 <p>○本時のめあてをつかみ、ノートに書く。</p>	<p>◆前時のノートを振り返られるようにする。</p> <p>※大泉町の写真</p> <p>※大泉町の外国人比率</p> <p>※大泉町に外国人が増えた理由</p> <p>※大泉町の外国人が増えたことによるメリット</p> <p>※大泉町で起きた課題</p>
<p>どのようにして大泉町のごみ分別問題は解決したのだろうか</p>	
<p>○本時の課題について予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人にきまりを教えた。 ・ごみの分別方法を守らなかった場合、罰金制度にした。 <p>○大泉町の課題解決の方法について調べ、大泉町の日本人、ブラジル人の関係を図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人は、ポルトガル語の表示をつくった。 ・ブラジル人は清掃ボランティアを行うようになった。 <p>○どのように図にまとめたか発表する。</p>	<p>※大泉町の課題解決についての文章資料</p> <p>◆図にまとめることで、日本人とブラジル人が相互に協力していることに気づかせる。</p>
<p>○本時の課題に対するまとめを一文でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人とブラジル人がお互いに助け合ったことで、ごみの分別問題が解決された。 <p>○学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違った文化をもった人が共に生活すると問題が起きることもあるが、お互いに助け合うことは大切だと思う。また、このようなことは大泉町だけのことでなく、東京でも同じだと思う。 	<p>◇それぞれの国の異なる文化や習慣を理解し、尊重し合うことの大切さを考えようとしている。</p> <p>【関・意・態②】(ノート)</p>

8 本時案 (8時間扱い8時間目)

(1) ねらい

- ・日本人と共に生活する外国人が増加していることについて調べ、お互いの文化を理解し、尊重し合うことの大切さについて考える。

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>※資料 ◆指導上の留意点</p> <p>◇評価規準</p>
<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの出し方について問題がおこった。 ・文化の通訳制度などを行い、課題を解決させた。 <p>○東京都に住む外国人数、日本を訪れる外国人の数について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む東京でも外国人が増えている。 <p>○日本人と外国人の共生によっておきている課題例について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊における問題 ・日本人が外国人を避けてしまっている。 <p>○本時のめあてをつかみ、ノートに書く。</p>	<p>◆前時のノートを振り返られるようにする。</p> <p>※大泉町の写真</p> <p>※東京都に住む外国人数の推移</p> <p>※日本を訪れる外国人の推移予測</p> <p>※民泊と民泊における課題</p> <p>※日本を訪れた外国人が感じている問題</p> <p>◆今後さらに外国人との共生がすすむことをおさえ、どのようなことが大切か考えさせる。</p>
<p>これから日本に来る外国人が増えていく中で、世界の人々とどのように関わっていくべきだろうか</p>	
<p>○日本人が、世界の人々のためにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人に分かるような日本語の表示をつくる。 ・英語を学習して、自分たちから話しかける。 ・日本の文化を知ってもらうイベントを開催する。 ・日本について紹介するアプリをつくる。 <p>○グループで、考えを話し合い、ホワイトボードに考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う国の文化や習慣を尊重し合っていくことが大切だ。 <p>○グループで話し合った考えを発表し合う。</p> <p>○日本人と外国人の共生に対する宮崎マルコさんの考えについて調べる。</p>	<p>◆大切だと考えることについて箇条書きで書かせる。</p> <p>◆少人数の4人で話し合いを行い、グループで話し合った内容をホワイトボードにまとめさせる。ホワイトボードには多様な意見を書かせる。</p> <p>※宮崎・マルコ・アントニオさんの話</p> <p>◆日本人からだけでなく、外国人からも積極的に日本の文化について知ろうとすることが大切であると気付かせる。</p>
<p>○世界の人々と共に生きていくために大切だと思うことを意見文にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々が共に生きていくためには、お互いの文化の違いを理解し、尊重し合うことが大切だ。なぜなら、それぞれの国の人は違った文化をもっているのだから、自分たちの考えが当たり前と思わずに、相手の国の人のことを考える必要がある。大泉町のように相手の国の文化について分からないことを教え合って、協力して生きていくことが大切だ。 	<p>◇それぞれの国の異なる文化や習慣を理解し、尊重し合うことの大切さを考えようとしている。</p> <p>【関・意・態②】(ノート)</p> <p>◆今後の日本では、労働人口が減少することから、外国人労働者が増えることが予想されていることを伝える。</p>